

4 参考絵図 (4) 薩摩風土記

(国立国会図書館蔵、デジタルコレクションより、1834 (天保5) 年韻勝閣主人謄写)



①鹿児島城下 「町は東むきにして、中にやしき町、前後に町家なり。御城の後山はみな武士なり。町は三分、武家は七分に候。」

『薩摩風土記 (薩摩誌)』3冊 著者不明・成立年不明 (19世紀前半頃か)

『薩摩風土記』は、城下を中心とした薩摩の風土記。文中に1822 (文政5) 年の記事があることから、それ以降の成立であることが推測されるが、作者や成立事情は不明である。多くの写本があるが、ここでは国会図書館蔵の2種の写本の内、挿絵がより精密な1834 (天保5) 年韻勝閣主人謄写本からの画像を掲載した。『日本都市生活史料集成』3 (城下町篇I) [原田1975] に鹿児島県立図書館蔵本が翻刻されているが、それとも比較的近い写本のようなものである。



② 鶴丸城 (御館)



③ 薩摩人



④ 武家方 (左)・薩摩下人女之図 (右)



⑤琉球館

「外国の人は、琉球人とはなしする事も法度なり。りう人はかんない（琉球館内）に居なり。…りう人、町にて芸子遊び御法度なり。唐物・琉物御法度なり。またぬけ（抜け）積物、天下様殿敷御法度なり。」



⑥琉球人



⑦高麗人装束



⑧伊集院 (苗代川) の壺屋